

「大学人, 社会人としての基礎力 養成プログラムの開発」 現況報告

平成21年9月9日(水)
13:00~15:00

1

本日のスケジュール

- 1部 SPODの概要
プログラム開発の経緯等
- 2部 プログラム構築の手法
プログラムの内容
- 3部 ワークショップ

2

設立の経緯

中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて」(審議のまとめ) 平成20年3月25日
(職員の能力開発)

…大学として、FDと同様、学内外でのSDの場や機会の充実に努めていくことが必要である。……なお、教職員の協働関係の確立という観点からは、FD及びSDの場や機会について、両者を峻別する必要はなく、目的に応じて柔軟な取組をしていくことが望まれる。

平成20年6月 文部科学省戦略的大学連携支援事業に申請

愛媛大学を代表校として、16大学等により共同申請

取組名称「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」による大学の教育力向上

8月末 文部科学省戦略的大学連携支援事業に採択

9月末 四国地区全体の大学等にネットワーク参加呼びかけ

10月 設立総会

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」

||

戦略的大学連携支援事業の採択事業を含む
四国地区におけるFD/SD連携活動の場

3

参加校

【愛媛】11校 (大学5)

愛媛大学(国)、愛媛県立医療技術大学(公)、
聖カタリナ大学(私)、松山大学(私)、
松山東雲女子大学(私)、

(短期大学4)

今治明徳短期大学(私)、愛媛女子短期大学(私)、

松山東雲短期大学(私)、松山短期大学(私)、

(高等専門学校2)

新居浜工業高等専門学校(国)

弓削商船高等専門学校(国)

【高知】6校

(大学3)

高知大学(国)、高知女子大学(公)、
高知工科大学(私)、

(短期大学2)

高知短期大学(公)、高知学園短期大学(私)

(高等専門学校1)

高知工業高等専門学校(国)

【香川】9校

(大学4)

香川大学(国)、香川県立保健医療大学(公)

四国学院大学(私)、高松大学(私)、

(短期大学3)

香川短期大学(私)、瀬戸内短期大学(私)、

高松短期大学(私)、

(高等専門学校2)

高松工業高等専門学校(国)

詫間電波工業高等専門学校(国)

【徳島】8校

(大学4)

徳島大学(国)、徳島教育大学(国)、

徳島文理大学(私)、四国大学(私)、

(短期大学3)

四国大学短期大学部(私)、徳島工業短期大学(私)、

徳島文理大学短期大学部(私)

(高等専門学校1)

阿南工業高等専門学校(国)

【合計】34校

大学16、短期大学12

高等専門学校6

4

SDとは

【スタッフ・ディベロップメント】

事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組を指す。「スタッフ」に教員を含み、FDを包含する意味としてSDを用いる場合（イギリスの例）もあるが、ここでは、FDと区別し、職員の職能開発の活動に限定してSDの後を用いている。

中央教育審議会 学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)用語解説 から抜粋

※現在、SPODとしてのFD/S Dの定義づけを検討中

5

ネットワークの呼称

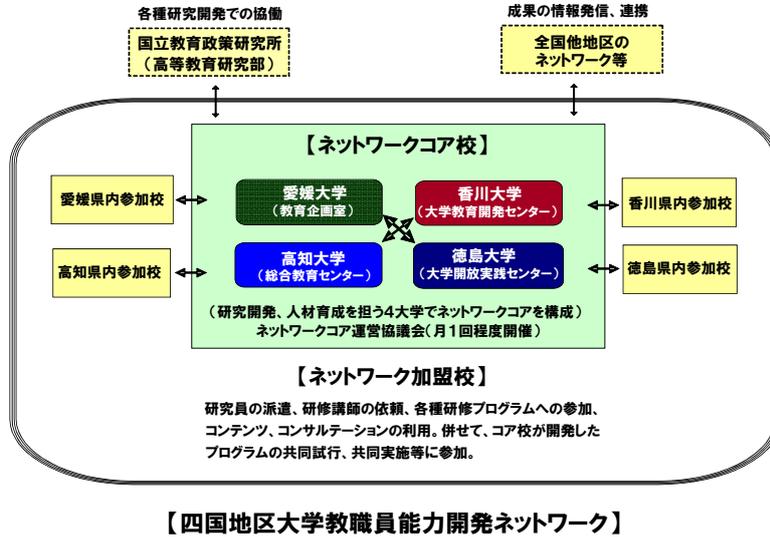
Shikoku
Professional and
Organizational
Development Network
in Higher Education

= **SPOD**

(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)

6

運営体制



SPOD－SD取組内容(3つの柱)

SPOD－SDプログラム開発における協働

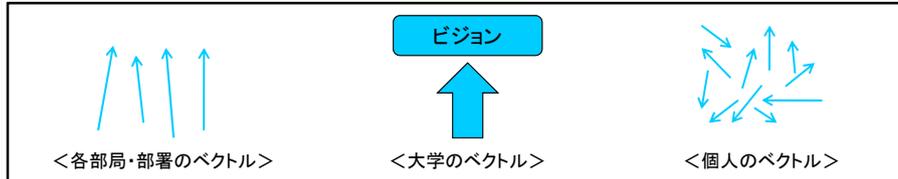
- S-1: 職員研修プログラム(SPOD－SD大学)
 - 階層別、専門分野別の開発、実施
 - (a) 経営者、管理者養成プログラムの開発、実施
 - 意思決定、企画立案、予算策定、危機管理、部下統率 等
 - (b) 専門職養成プログラムの開発、実施
 - 例えば経営情報分析、広報や渉外、学生支援、入学者選抜 等
 - (c) 次世代リーダー養成プログラムの開設、実施
 - 選抜された若手職員の企画立案能力養成、ネットワーク化

これらの基礎となるのが「**大学人、社会人としての基礎力養成プログラム**」
- S-2: 職員業績記録(スタッフ・ポートフォリオ)の開発
 - 職員の職歴や業績の可視化。段階的キャリアアップ等への利用
- S-3: 職員キャリアアップサポートの実施(キャリア形成に係るアドバイス等のほか、
人事交流の紹介・斡旋など)※S-1、2で行う取組をより実質化していくための方策
国公私を通じた職員人事交流 等

SPOD-SDプログラム導入効果① 現状分析

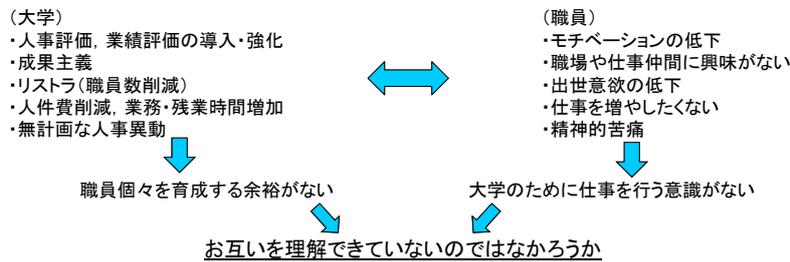
<現状>

大学・各部署・各部署が向かおうとしているビジョンやベクトルと職員個々の職員としてのビジョンやベクトルが一致していないのではないのでしょうか。



大学等と職員個々のキャリア・パス イメージなどの間に生じる「ギャップ」が大学等や経営者・管理者および職員に不満やストレスを発生させていると考えられます。

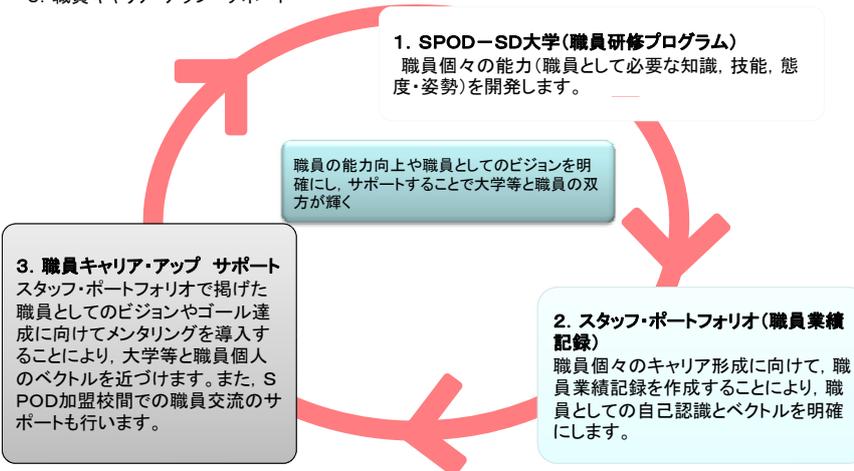
<ベクトルの不一致により生じる「ギャップ」の例>



SPOD-SDプログラム導入効果② SPOD-SDプログラムの構成

SPOD-SDプログラムは大きな3つの柱で構成されています。

1. SPOD-SD大学(職員研修プログラム)
2. スタッフ・ポートフォリオ(職員業績記録)
3. 職員キャリア・アップ サポート



10

SPOD-SD大学(職員研修プログラム)構想図

1. 専門職養成課程

大学職員の専門性を育成する職員研修プログラムを学士、修士、博士課程として位置づける。そのため、各専門領域を学部や研究科として位置づける。

	専門教育 (専門職養成プログラム)	共通教育 (基礎力養成プログラム)
学士課程 レベル1 専門○○単位 共通○○単位	医学部(研究科) 情報処理学部(研究科) 国際交流学部(研究科) 図書学部(研究科) 施設学部(研究科) 財務学部(研究科) 総務学部(研究科) 研究協力学部(研究科) 学務学部(研究科)	大学人・社会人としての基礎力を養成するための共通研修科目
修士課程(専門) レベル2 専門○○単位 共通○○単位		
博士課程(専門) レベル3 専門○○単位 共通○○単位		

2. リーダー養成課程

大学のミドルリーダー、トップリーダーに必要な知識・技術・姿勢を育成する職員研修プログラムを修士、博士課程として位置づける。なお、修士課程(リーダー)を受講する際は、修士課程(専門)以上のプログラムを受講中または修了していることを原則とする。さらに、博士課程(リーダー)を受講する際には、博士課程(専門)を受講中または修了していることを原則とする。

修士課程(リーダー) ○○単位	次世代リーダー養成プログラム
博士課程(リーダー) ○○単位	経営者・管理者養成プログラム

まず山形大学へ訪問調査を実施

・調査目的

平成15年度から全国の大学に先がけて特色あるSD活動を実施している山形大学の取り組み状況等について調査を行い、SPODおける、階層別・専門分野別の職員研修プログラム開発・実施に資することを目的とする。

・SPODからの参加者

7名が調査に参加

・対応者

山形大学教授SDディレクター 小田隆治先生

・意見・アドバイス等

- ◇ 今後の職員研修プログラムを開発する上で一番大切と思われることは、このネットワーク加盟校が連帯感を持って取り組むこと
- ◇ 一同に集まり、合宿研修等で作業を行うべきで、5~6人のグループワークを行うこと
- ◇ 1日目の夜は是非懇親会を実施すること

小田隆治先生を囲んで



13

第1回SPOD－SD合宿セミナーを実施

目的： 今後のSPOD－SDプログラムの開発・実施を円滑に進めるため、ネットワーク加盟校間における連帯感を高めるとともに、基本的なSD研修プログラム開発の手法を学ぶことを目的として実施

日時： 平成21年1月30日(金)・31日(土)

場所： 独立行政法人国立大洲青少年教育振興機構

「国立大洲青少年交流の家」

対象者： ① 各ネットワーク加盟校SD担当者

② 意欲ある事務職員の方

参加者： 33名

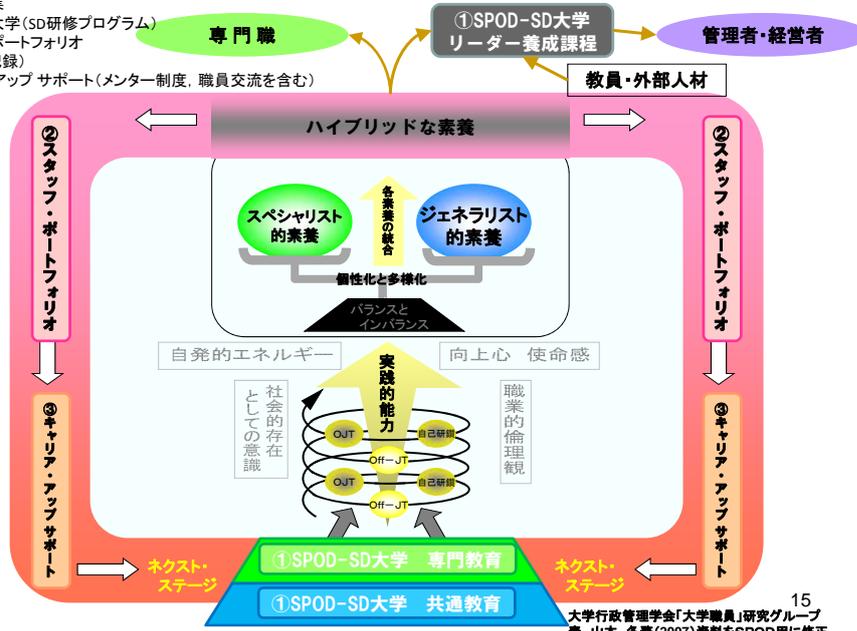


14

SPOD-SDプログラムが想定する職員のキャリア・パス・イメージ(案)
 ~大学と職員が共に輝くために~

SPOD-SD事業

- ①SPOD-SD大学 (SD研修プログラム)
- ②スタッフ・ポートフォリオ (職員業績記録)
- ③キャリア・アップ サポート(メンター制度, 職員交流を含む)



15
 大学行政 管理学会「大学職員」研究グループ
 兼、山本、各務(2007)資料をSPOD用に修正